

## 2023 年春季 参加報告書

**参加プログラム：ディーキン大学**

**参加時の学年：2 年、学部：人文、学科：英語英米文化**

留学の目的は他国で生活し、英語のスピーキング力をあげることでした。私は英語を話すことが好きで、大学在学中に短期留学に挑戦したいと考えていたため、オンライン留学ではなくなったこのタイミングで参加したいと思い、留学を決めました。留学に行かなくても大学の授業で英語を使う機会はありましたが、英語しか使えないという環境にいきたいと思いました。また、今の自分の英語力でどのくらい現地の人と通じることができるのか確認したいと思ったことも留学することを決めた理由の一つです。

大学の授業では、スピーキングや文法がメインで進められました。ペアワークやグループワークが多く、クラスの人と仲良くなるのに時間はかかりませんでした。自分のことについて話したり、グループで話し合ったりしました。最後の週にエッセイライティングのテストとグループワークのテストがあったのですが、私は特にグループワークのテストが楽しみでした。このテストはグループに分かれて Podcast を作り、実際に録音する機材が整った場所に行き、レコーディングするというものでした。一人一人、自分の話したいトピックを決め、台本を作り、自然な会話をしているようにグループのメンバーと話すというものでした。私はもともと Podcast をよく聞いていたので、このテストについて聞いたときから、どんなものになろうか楽しみにしていました。Podcast 自体がカジュアルなものなので、今まで日本でやってきたプレゼンテーションなどのフォーマルな感じのスピーキングテストとは違い、自然な会話に近い英語を使うというところが面白いと思いました。自然な会話になるように台本に書いていなくても相槌を入れたり、リアクションをしたりすることは日常生活の英会話でも使えて、役立ったと思います。また、Podcast の練習を通して発音の練習もできて、英語の発音が良くなったと感じました。ただ、クラスの構成について 16 人中 14 人が日本人で、授業外の教室は日本の学校と変わらなく、日本人以外の友達を現地で作るのには難しいと思いました。そのため、日本人同士でも「英語で話そう」と声をかけて英語で話すこともありました。クラス以外でもこの期間にディーキン大学に留学した留学生はおそらく 8 割ほどが日本人だったため、クラスでも日本人の割合が多くなるのは仕方ないかもしれません。クラス外の時間ではホームステイ先で英語を使うことができました。私のホームステイ先では食事は個々で食べていたのでホストファミリーと話す時間が少なく、他の学生がホストファミリーと多く話しているという話を聞いて少し焦りのようなものを感じたこともありました。ですが、リビングに誰かいたら話しかけたり、話しかけてもらったときに会話を続けられるように何を話すかメモしたりと工夫をしていました。長く会話を続けられたときは相手に自分の英語が通じているということと自分が聞き取って理解できているということを実感できて嬉しかったです。ホームシックになることはなく、まだまだ英語を話し足りないという気持ちです。ただ、一つだけ留学中に辛かったことは一か月間ほとんど毎日 3、4 時間しか眠れず、どれだけ疲れていて早く寝ても、夜中や早朝に目覚めていたことです。1 週間ほどは睡眠が取れなくても問題を感じていなかったのですが、その後は心身ともに疲れがたまっていきました。それ以外の点では、辛いと感じることはなかったです。強いて言うならば、英語を話せなくて悩みたいのに、英語を話す機会を作りたくて悩んだことです。以前は英語を話すとなると間違っていないか気にして、間違えることを恐れていたところがありましたが、留学を経て、失敗を気にするよりも伝わる英語を話すことを心がけたいと思うようになりました。また、毎日日記を書いていたのですが、日記を書くことで振り返ることができるということはもちろんですが、今自分が何を思っているのか、何をしたいのかより明確に分かるようになりました。

今後の目標としては、日本にいながらも英語を話す環境をつかって、語彙や表現を増やして、流暢に話せるようになることです。